

### プログラムの概要

教育学部は、「人に対して教える・人を育てる」ということを大切に学びを行います。この学びを社会のあらゆる場で生かすために、学校教育現場において教員として活躍する人を養成する「学校教育教員養成課程」と、教育学部の幅広い学びを活かしながら、複雑で多様な現代社会において学際的な教養人として活躍する人を養成する「総合人間形成課程」の2つの課程で構成されています。

「学校教育教員養成課程」では、教員免許状を取得することを最大の目的としながら、教員になるにあたっての専門的知識に加え、現代的諸課題に対応した幅広い教養を総合人間形成課程の開講科目から吸収することができます。一方、「総合人間形成課程」では、自律的な自己設計によるカリキュラム設計をする中で、その骨組みの中に人間教育のありようとして学校教育教員養成課程で開講されている科目を反映させることが可能です。このように、教育学部では課程制の強みを生かすことで、カリキュラムの柔軟性を高め、教員組織の相互交流を実現しており、学生の多様な学びに対応することが可能になっています。したがって、この2課程は不可分の存在であり、相互補完的な関係（互恵関係）と言えます。

「学校教育教員養成課程」は、各種教員免許状が取得できるように以下の3つのコースより構成されており、実践的指導力のある小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を養成します。また、幼稚園や保育所などの幼児教育や子育て支援を担う教員や保育士の養成も行っています。

【学校教育コース】 教育専攻では教科の枠を超えて学校における教育活動の基盤となる教育学・教育心理学を学習し研究します。

【教科教育コース】 教育専攻・社会科教育専攻・数学教育専攻・理科教育専攻・音楽教育専攻・美術教育専攻・保健体育専攻・家政教育専攻・技術教育専攻・英語教育専攻の10専攻に分かれ、小学校・中学校の教科の一つについて教科指導の基盤となる学問・技能をさらに深く学習し研究します。

【特別支援教育コース】 特別支援教育専攻では障害のある児童生徒の発達と教育について専門的に学習し研究します。

また、3コースとも次のような特徴を持っています。

- 特定の教科のみにとどまらず、学際的・領域統合的な学習を行うことが可能であり、特定の専門を深化させることとのバランスを保つことができます。
- 少人数制での演習や実習等を積極的に採り入れており、主体的に思考する機会に恵まれ、きめ細かな実践体験を通して、教養育る存在になる意識と自信を高めます。
- 課程制の利点を活かし、学部内のあらゆる教員との交流を促進し、多くの教員からの多様な指導が受けられるように配慮しています。
- ポートフォリオ等で学期毎に履修状況を確認・点検することを通して、学生に自己省察を行ってもらうようにしています。また自己形成に積極的に取り組めるよう適宜アドバイスを受ける機会を用意しています。

### 達成目標

【教育学部】

- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。
- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。
- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。
- 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。
- 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。

【学校教育教員養成課程】

- ・教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。
- ・教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。
- ・発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。
- ・実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。
- ・教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるように、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。

### 履修条件（アドミッション・ポリシー）

#### 1. 求める学生像

教員の養成を目的とする学校教育教員養成課程では、次のような資質・能力を身につけている人を求めます。

- ・高等学校における履修内容を理解し、その知識や実践能力を身につけている。
- ・ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる。
- ・考えや気持ちを的確に表現することができる。
- ・「学ぶ」「教える」「育てる」「発達する」という行為・現象について関心があり、教育活動に積極的にかかわる意欲がある。
- ・様々な活動に主体的に取り組めるとともに、共感性や思いやりの心をもって行動できる。

これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

#### 2. 入学者選抜の基本方針

学校教育教員養成課程の選抜においては、求める学生像に基づき一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）、特別選抜（推薦入試Ⅰ）等の多様な選抜方法により入学者を選抜します。また、一般入試においては、それぞれの専攻の特性を重視し、文系・理系・実技系・特別支援教育コースに分かれて選抜を行います。

### 到達目標に達するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部の達成目標に到達させるために、カリキュラム・マップ（別冊資料）に示すように授業科目が編成されています。カリキュラムは以下の3つの柱で構成されています。

#### ●学びの入口での道標提示・出口保証に関する科目【キャリア形成】

1年次では大学での学びに対する基礎的な態度を身につけることを目的に「初期セミナーB」を開講し、セミナー形式の少人数グループで、教職キャリアを形成していくための基本的な学び方を体得します。また、1年次後期の「教職入門セミナー」では教壇になる意識が促進されるように、教職に関する様々な内容について触れます。これを受けて、2年次の「教職基礎演習」（事前事後指導）において自分の教職キャリアを見直し、後の教育実習に向けた学びを具体化します。最終的に、4年次後期の「教職実践演習」において、課程で身につけてきた実践的指導力・専門的力量・教職キャリアを統合し、模擬授業やロールプレイなどの取組みを通して、厳正に評価していきます。

#### ●専門性を主に修得する科目【専門的力量】

専門的力量を身につける科目群として、小・中学校の指導内容に関する基礎力及び方法論について学ぶ科目（課程共通科目Ⅰ）、それらで培った教職力に幅を持たせ、教員としての資質を向上させるための科目（課程選択科目、選択教職科目）、得意分野の創成を図るための科目（専攻専門科目）の4つの科目群より構成されています。

#### ●実践力や自己省察を主に促進する科目【実践的力量】

課程共通科目Ⅱの教育実習システム（プログラム）があり、実践的指導力を有する教員の養成を目指しています。2年次から4年次にかけて積み上げ式で「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」を履修するようになっています。「教育実習Ⅰ」では、宇都宮市内の公立小・中学校において現場を理解するための観察実習を行います。それに続いて「教育実習Ⅱ」では附属小・中学校において、教師としての実践力の基礎的な技術や心構えを細かく実習します。この経験を生かして、協力校において「教育実習Ⅲ」を行います。また、教員免許状を取得するにあたり、介護体験の参加も義務づけられており、他者に対する配慮や支援の仕方を体験します。

### 修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位を修め、教育学部の達成目標に到達した者に対して学位を授与します。学位授与ポリシーに定めた知識、技能等の力量を修めたかどうかという出口保証については、所定の単位修得に加えて、各課程・専攻の卒業論文・卒業研究で確認すると同時に、4年次後期に学校教育教員養成課程では「教職実践演習」という授業科目を設定しており、明確に確認できるよう留意しています。

# 教育学部カリキュラム・ツリー

